

今がチャンス! これから楽しみ!

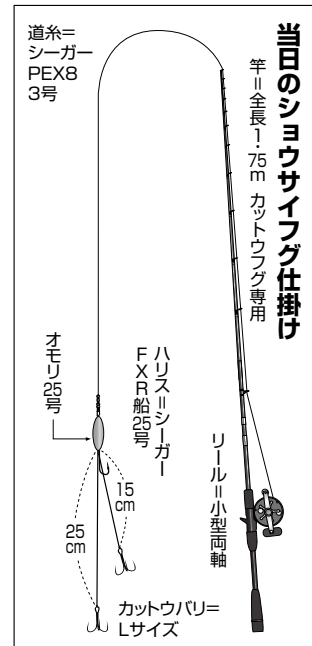
# 釣りどきレポート

Best Season Report

2週間前までは秋なのに  
暑いなあと思っていたら、あっという間に  
気温が下がって冬の様相。  
防寒着必須の季節となりました。

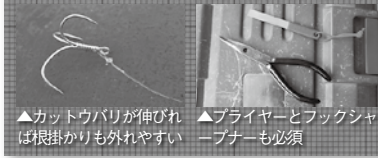


▲大原のショウサイフグはこれから模様がよくなりそう



### • Tackle Guide

道糸はPE 3号がおすすだ。水深やオモリからすればオーバースペックだが、3号なら根掛かりしてもカットウバリのほうが伸びて外れてくれるから、太い分多少潮に押されやすくはなるが、フグ釣りの水深ではそれほど気にならない。曲がったカットウバリを直すプライヤーと、なまったハリ先を研ぐフックシャープナーがあるとハリ交換のコストと手間も省ける。



▲カットウバリが伸びれば根掛かりも外れやすい ▲プライヤーとフックシャープナーも必須

釣りでエサを海底に安定して着けておけるかどうかでアタリの数が違うのだ。で、幸運なことになり1投目からアタリ。しかもコツコツ! とはつきり分かりやすいアタリで、聞き合わせるように軽くシヤ

スト交じりとはいえアタリが多いのはけっこうなことだ。そして日が昇り回りが明るくなるとフグからのアタリが増え始める。「食いのいいときには暗いうちでも食ってくる」と船長は言っていたが、カワハギ同様フグも朝寝坊なことが多いようだ。

**ドキドキの30センチ**  
ウネリが大きくゼロテンをキープするには相当大きく竿を上下しなければならぬ。それでも正確にいうとゼロテンとはいえず、底に着いたオモリエサを海底にとどめているだけで精一杯な状況だ。こんなことも想定して2本あるカットウフグ竿のうち長めの竿を持参したのは正解だった。平場のフグ

▼思いのほか良型がそろった



味。この後、船長はやや灘寄りへとポイント移動。ここではポツポツと釣れてはいたが、やや小型が目立つようになり、1時間とやらずに再移動。今度はかなり岸寄り、根の中をやってみましょう。糸出しちゃうとすぐ根掛かりするから気を付けて」とアナ

根の中というところでヒガンフグが中心になるのかと思っただけ、釣れるのはショウサイフグがほとんどで、ごくたまにコモンフグも交じった。型は沖目のポイントに比べるとやや小型になったが、それでもピンポン玉サイズは1/2割といったところでキープサイズが多いのはうれし。

### ●船宿information

外房大原港  
**敷嶋丸**  
☎0470-62-1800  
(詳細は巻末の情報欄参照)



山本 幸夫船長

▶料金=ショウサイフグ乗合 一人1万円(水付き) エサ1バック500円  
▶備考=予約乗合、4時半集合。希望でヒラメへも

更。掛かり方は変わらずいい感じ。周りの方も順調に数をのばして11時に沖揚がりとなった。釣果は7/20尾。私は14尾でうちリリースは3尾。型も朝方大船長が心配したような小型ばかりということはなく、22/23センチ級がメインで15/30センチ級までとまずまずだった。船長に話を聞くと、今後「よほどショウサイフグが食わないときにはヒガンフグを狙うこともあるけど基本的にはショウサイ狙い」とのこと。これから寒さは厳しさを増すが、テッチリとうまさも格別になる。水温の低下に伴い群れが固まり出せば大釣りへの期待も高まる大原沖だ。

## 群れが固まれば大釣りも 大原フグの期待度上昇中

●外房大原港発↓大原沖

フィッシングライター 相川晃 Akira Kasukawa

エリアを問わなければ一年を通して狙えるショウサイフグ。初夏の味覚も人気だが、身を食べるなら産卵から回復した秋口からのフグというグルメファンは多い。産卵期を禁漁とし9月から解禁となるのが外房大原沖で、今期は釣果にやや波があったが、11月に入りまた釣れ出したと聞き、大原港の敷嶋丸へと釣行した。

### フグも朝寝坊!

港で大船長に話を伺うと、「今年水温が高いからこれまでフグが散らばっている状態みたいだね。それでもしばらく前からちよっと食い出したんだけど、ここに来て小さいのが多くなってきちゃったみたいだよ」と何やら雲行きの怪しいお言葉。とにもかくにも5人の釣り人を乗せ、山本幸夫船長の操

船で港を出る。まだ夜明け前で辺りは真っ暗闇。北東からの風とウネリでややシケ模様の中を船はゆっくりと進み、15分ほど走ったところで「この辺りからやってみよう」と合図が出た。水深19メートルのこのことだが、だれにもアタリはない。近くを流す僚船からも「サバフグが1匹だけ」と芳しくない無線が聞こえる。しばらく流し続けたがアタリが出ないとみるや、船長から移動の声がかかった。少し流す筋を変えた2流し

### 知得! Tips and Tricks 釣ったフグは船宿でさばいてもらう

釣ったフグは下船後フグ処理免許を持った船長が身欠きしてくれるが、敷嶋丸のそれは驚くほどいい。帰宅後はそのまま調理方法に合わせて三枚おろし、ブツ切りなどにするだけでよくとも楽ちんだ。ちなみに無毒であるシロサバフグやカナフグは処理してもらえない。これは本来南の魚だったドクサバフグ(容姿がサバフグ、カナフグと酷似)が北上し関東でも見つけた事例があり、またサバフグ類とのハイブリッド(交雑種)情報もあって判別が難しいからだ。安全第一の姿勢を理解しよう。



▲釣ったフグは必ず船長にさばいてもらうこと

出始める。まずは右トモ氏に25センチ級の中型、アゴ下のいい場所にバッチリとアツパ1カットを決めた。その後はガンゾウビラメ、サバフグ、シロギスとゲストの連発に「苦」付きではあるが、船中に笑いが増える。ゲ

●かすかわ あきら / 出船30分前に見た雨雲レーダーでは大原沖に雲はかからなはずだったのだが……30分前の予報でも外れることあるのね。

